

## 白馬岳（大雪溪より往復）

1989年6月3日土曜日

（快晴）

メンバー L 岡坂 準一

橋本 亨

1週間前の運営委員会山行に参加された方は、晴天の中、杓子沢の大滑降を堪能されたようであるが、土曜日の午後東京を出発した私は、翌日の日曜日、手塚さん井村氏 柴崎氏ら4人で白馬岳へ向かったが、雨のため大雪溪の登り口で引き返えざるをえなかった。

そこで今週は、橋本氏と二人で再度白馬岳へ登ることとした訳である。

7時15分に猿倉を出発した。大雪溪入口まではスキーを担いで約50分の登りである。大雪溪にてシールを付ける。やはり昨年よりは雪が多いようだ。

本日、白馬岳へ登るパーティは多いがシールで登っている人が少ないのには不思議な気がした。大雪溪は、ほとんどシールで快適に直登できるのに。稜線の白馬山荘にて、橋本氏をしばらく待つが、橋本氏が本日は、稜線で引き返すと言っていたのを思い出し、山頂へは私一人で登ることとした。山頂直下までスキーで登ることができた。山頂から黒部側の柳又谷の斜面が魅力的である。

来年は柳又谷より雪倉岳へのツアーをぜひ企画してみたいものだが日帰りでは無理か。山頂直下よりスキーを付け、稜線よりに村営頂上宿舎まで滑りおり、橋本氏と合流する。今朝、大雪溪を登る途中に偶然会った、代々木山幸の雨宮氏とオートルートを話題にしながら、しばらくは小屋のベンチで休む。

2時頃大雪溪を滑りだしたが、雪質は稜線直下より下るにつれてスキーを回しやすい雪質で、落石もなく快適な滑降を楽しむことができた。

6月にこれだけの標高差（1500m）を滑れたのは大満足であった。

（岡坂 記）

### コースタイム

猿倉発	7時15分
白馬山荘	12時15分…12時35分
山頂	12時55分…13時15分
村営頂上宿舎	13時25分…13時50分
猿倉着	15時10分

# 白馬岳 ルート概念図

